

2020年度第2回理事会議事録

1. 日時：2020年9月26日（土） 13:30～16:00

2. 場所：テレビ会議（Zoom）

3. 出席者（テレビ会議による出席）：

理事：総数26名中

松丸喜一郎会長 田村恒彦副会長 袴田登喜造副会長兼専務理事
岸高清常務理事 溝部政司常務理事 永谷喜一郎常務理事
大野明敏常務理事 鍵山博常務理事 横山幸子常務理事
三木容子常務理事 佐橋朋木理事 源洋子理事 成山悟史理事
寺澤良悦理事 田中僚一郎理事 高橋信吾理事 田中辰美理事
田口亜希理事 松島愛理事 上之園正一理事 横沢聡理事
尾崎和郎理事 五十嵐治人理事

以上出席23名

監事：総数2名中 石崎和男 香西俊輔 以上出席2名

4. 議事録署名：松丸会長、田村副会長、袴田副会長、石崎監事、香西監事

5. 袴田専務理事が13時30分に理事22名出席で成立するとの宣言をした。

高橋信吾理事は、遅れて参加。

6. 議長：代表理事 松丸喜一郎

袴田専務理事が点呼をとり、オンライン会議システムにより、出席者の音声は即時に他の出席者に伝わり、一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明ができる状態となっていることが確認されて議案の審議に入った。

会長挨拶

ウィズ・コロナだけでなく、アフター・コロナも見据え、協会も各業務、大会について変わっていききたいので、みなさんと共に話し合っていきたい。

<審議事項>

1. ガバナンスコードの自己説明（案）について

袴田専務理事より、資料にもとづいて案が説明された。

コロナの影響により、当初計画より3か月程度遅れている。

特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く、ガバナンスコードの自己説明（案）を予備調査チームへ提出することについて資料1のとおり承認した。

2. 東京2020オリンピック選手選考新要綱（案）について

田村選手強化委員長より、資料にもとづいて案が説明された。

日程は、確定的ではなく変更の可能性があるため、日程変更できるものとした。

屋外種目である25mと50m選考会の実施場所について、五輪本番会場が使えない場合は、

環境の似ている自衛隊体育学校を利用したいとの旨、体育学校にお願いをした。
特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く、東京 2020 オリンピック選手選考新要綱(案)について資料2のとおり承認した。

3. 国民体育大会種目の変更について

鍵山国体委員長より、資料にもとづいて案が説明された。

- ARPR を ARJ に変更した理由は、少年、女子種別の充実が JSP0 により進められている事にあわせるため。
- ファイナルは実施しないというのは、メダルマッチは実施しないという意味である。
- 導入は、佐賀国体からの予定。
- 当協会の承認後、JSP0 から全国のスポーツ協会に出し、80%以上の賛同を得て、採用となる。

特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く、国民体育大会種目の変更について資料3のとおり承認した。

4. 国民体育大会施設基準の見直しについて

鍵山国体委員長より、資料にもとづいて案が説明された。

- 電子標的がコスト負担となることに対し、削減案が数年来検討されてきた。
- 国体委員会で書面決議をとったところ、賛成 21/29 であった。

案に対して、下記の質問がなされた。

- 大野常務理事より：射座数を 14 射座にすると、改定以降は、これが上限となるのではないか。
- 田村副会長より：CP は規程の 18 的以下だが、運用で対応している。規程の基準を変えるのではなく、運用で対応できないのか。
- 溝部競技運営委員長より：射撃場の公認基準を変える必要があるため、具体的に 14 的の射撃場をつくる話が出てからではどうか。

現時点で結論が急がれるものではないため、国民体育大会施設基準の見直しについて継続検討とされた。

5. 射撃場の公認について

溝部競技運営委員長と田中僚一郎理事より、資料にもとづいて案が説明された。

特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く、射撃場の公認について資料5のとおり承認した。

6. 公認審判員の承認について

平井審判部会長より、資料にもとづいて案が説明された。

特に質疑は無く、議長が諮ったところ全員異議無く、公認審判員の承認について資料6のとおり承認した。

7. 2020 年度育成アスリート指定基準及び海外派遣要綱の改正について

三木ジュニア育成委員長より、資料にもとづいて案が説明された。

大野常務理事より：第5条4項 エリートアカデミーは自動的に海外派遣対象になるの

ではなく、ある程度の基準を設けるべきではないか。

⇒ ジュニア育成委員会で検討する。今回の審議は日程部分についての変更であるので、ご提案の内容については、今後の理事会で提案する。

議長が諮ったところ全員異議無く、2020 年度育成アスリート指定基準及び海外派遣要綱の改正について資料7のとおり承認した。

<報告事項>

1. 委員会報告：

1) 総務委員会

● 高校生会費返還額確定報告

袴田専務理事より、資料にもとづいて報告がなされた。

430 名の予定だったが、実際は 203 名 (203,000 円相当) になった。

差分は、競技を再開したことを示す。補正予算に対して、おおむね見込み通りか収入が若干上方修正されている。

● 慶弔規程の見直しについて

袴田専務理事より、加盟団体会長の弔辞に生花を出す事を規程に明記した事について、口頭にて報告がなされた。

資料なしの議題があることを是正すべきであるとの指摘を石崎監事より受け、今後は要点をまとめた資料か、表題で内容がわかるようにする事とした。

● ISSF 委員改選対応について

田村選手強化委員長より、以下の者を ISSF の委員会委員の立候補者として届け出た事の報告がなされた。

- コーチアドバイザー委員 ドウシャノフ・エミール氏
- ライフル委員 藤井彌氏
- メディカル委員 小野聡氏

● 2021 年度に向けたマーケティング戦略活動の開始実施報告

佐橋副委員長より、画面共有された資料に基づき「マーケティング専門部会(仮称)」を設置した報告がなされた。

松丸会長より、今年度より導入されるガバナンスコードにおいて、中長期計画の一環としてマーケティング活動が求められている事の補足説明がなされた。

2) 推薦委員会報告

● 審査結果報告

大野推薦委員長より、資料にもとづいて報告がなされた。

● 申請母体の一本化と申請の電子化について

袴田専務理事より、口頭にて下記の報告がなされた。

- 「申請母体」は、推薦書を交付する推薦者を指す。
- 推薦者の一本化について、現在は JSP0 と県体育協会の二者に推薦を依頼しているが、手続きが形骸化している。今後 JSP0 に一本化する交渉と準備を進めてい



る。なお、条例などが関わっているので、1つ1つすすめる。

- 推薦の電子化については、適格証明を Google フォームより申請することについて、10月運用開始予定で準備を進めている。

3) 国体委員会報告

● 鹿児島国体の延期年度について

鍵山委員長より、2023年度に実施される予定となったとの報告が口頭にてなされた。鹿児島国体のリハーサル大会は、行わない予定。全日本社会人をどこでやるか、検討する必要がある。

4) 2020 東京オリパラ準備運営本部報告

テストイベントに関する説明

袴田専務理事より、テストイベントについて、口頭にて報告がなされた。

テストイベントは、現在4月下旬で検討しており、参加選手は国内選手のみになる可能性がある。時期、内容は、未だ流動的である。

5) ジュニア育成委員会報告

● エリートアカデミーのオーディション

田村副会長より、エリートアカデミーのオーディションについて、口頭にて報告がなされた。

オーディションは、10月18日に行われる。10月19日、もしくは20日にメールにて理事会の書面決議を事務局長から送信するので、10月末期限でJOCに返答しなければならないのですぐに回答してほしい。

● 東アジアユースの開催について

三木ジュニア育成委員長より、同大会の開催について、口頭にて報告が行われた。

韓国とシンガポールへ事務局長名にてレターを出し、オンライン接続によるリモート大会の実施を提案している。また、韓国やシンガポール以外の国の参加を呼びかけても良いか、両国へ提案している。

6) 競技運営委員会報告

● 10月G1G2大会の開催について

溝部競技運営委員長より、資料にもとづいて報告がなされた。

- 【34】全日本選抜ライフル射撃競技大会(10mAR/AP)は、ファイナルをリモート大会にて行う。
- NT選考会は、選手を絞って実施する。
- 【39】全日本障害者ライフル射撃競技選手権大会は、実施する予定。
- 【40】全日本マスターズライフル射撃選手権大会(50m10m)、【42】全日本ライフル射撃クラブ対抗選抜大会(50m・10mSの部)は、藤枝市にて開催予定だが、藤枝市が現在、同施設への県外者の入場を不許可としている。市議会にて解除されるのを待っている。
- 【43】秋季ピストル射撃競技 千葉大会は、開催予定。
- 12月以降は、感染状況がかわらなければ、ガイドラインに則って開催していく。

参加者が多い場合は、参加数を絞り込む。

7) 普及・生涯スポーツ委員会

認定コーチのバッジ作成について、永谷普及・生涯スポーツ委員長より、口頭の報告がなされ、バッジのサンプルが画面共有にて示された。過去の認定コーチはカードだったが、今後は公認審判バッジのように、認定コーチバッジを発行し、加盟団体経由で配布する。

2. 会務報告

● リモート・ファイナル大会の実施報告

藤井彌事務局長より、リモート・ファイナル大会の実施報告として、NHKスポーツニュースで取り上げられた時の動画が画面共有された。

● 訃報

藤井彌事務局長より、下記の方々の逝去が報告された。

- 谷川俊明(たにかわとしあき)千葉県ライフル射撃協会会長 8月29日逝去 享年68歳
- 刈谷洋一(かりやよういち)元正会員、高知県ライフル射撃協会元副会長、同協会元理事長 9月21日逝去 享年80歳

3. その他

鍵山常務理事より、審判講習会もオンラインで開催していただきたいとの要望があり、検討することとした。

大野常務理事より、ナショナルチーム選手やジュニア育成選手について、頑張ってもらいたいとの発言があった。田村選手強化委員長より、NTCでの練習により効果が出てきている事を、最近の記録を例にあげながら報告がなされた。

16時00分に議長の松丸会長が閉会を宣言した。

2020年9月26日

議事録署名人

公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長、代表理事（会長）松丸喜一郎 松丸喜一郎



代表理事 田村恒彦 田村恒彦



代表理事 袴田登喜造 袴田登喜造



監事 石崎和男 石崎和男



監事 香西俊輔 香西俊輔



印

